

荒小P連だより 令和2年度 秋号

発行責任者 荒小P連会長 中澤 礼子／編集 荒小P連 広報部

荒小P連とは・・・区内24校の小学校PTAで構成される連合会です。

10月2日に区役所の特別会議室にて、各校のPTA会長が集まる会長会が開催されました。

そこで話し合われた、いま、荒川区内の小学校PTAで最も旬な話題を、皆さまにお届けします。

コロナ禍の中でもできるPTA活動って？

- ・ PTA行事だけでなく学校行事、地域の行事の多くが中止、縮小された。そんな中、子供たちにせめてもの思い出作りの行事をやってあげられないか、という意見が自然と湧きあがってきた。
- ・ 花火大会をやった！これからやる！
 - ・ 三峽小：毎年のPTA行事である納涼祭の代わりに、8月に実施。全児童を対象としつつも密を避けての校舎内からの観覧とし、防火対策として地元消防団の協力も得た。
 - ・ 三日小：近隣町会主催が毎年行う盆踊り大会の代わりに、三日メンズ（父親の会）主催で7月の最終土曜日に実施。費用は寄付を募り、参加児童は1学年と6学年に限定。
 - ・ 六瑞小：今年初めての試みとして、パパの会主催で10月2日に実施。費用は寄付を募り、小規模校の利点を活かし児童だけでなく保護者も一緒に参加できる形とした。
 - ・ 六日小：今年初めての試みとして、おやじの会主催で10月10日に実施予定。6学年の児童を対象とし、会費制にて、内容はキャンプファイヤーと花火の二本立て。
 - ・ 瑞光小：毎年のPTA行事である盆踊りの代わりに、11月15日（運動会後の夕方）に全児童を対象に実施予定。当日準備や音楽の選曲では、6学年の児童もお手伝い。
- ・ 夜間学校探検・バーチャル探検を企画中（ひぐらし小）。

PTAの組織とPTA以外の組織 （おやじの会・父親の会）の関係って？

- ・ 例えば上記の花火大会のように、とにかくやってみようという考えから始まる活動や行事の場合、PTAの組織よりもおやじの会・父親の会のような組織の方が、同好会的な集まりであることもあり、素早く決定して、動くことができる。
- ・ 職業上の技能や趣味の特技を活かして、PTA活動や学校行事に貢献できる。
 - ・ 汐入小・汐入東小：汐入父親の会が両校にまたがって組織されていて、20年の歴史があり、PTAの行事とは別に独自の行事や活動（花火、紙飛行機づくり、運動会でのダンス、会員同士のクラブ活動）を行っており、今年の両校の運動会では学校側と一体となってライブ配信を実現。

- ・ 三日小：前述の盆踊りでの模擬店の出店や、運動会の人気種目である三日メンズの綱引きなどの活動を行っている。
- ・ 四峡小：20年の歴史があり、夏休みの防災キャンプや、運動会で大盛り上がりの先生対お父さんの対抗リレーなどの活動を行っている。
- ・ 何らかの行事をやるために父親の会を組織したり、加入を募集するのではなく、例えば運動会の後片付けの手伝いへの声掛けといった形で知り合って、そこから一緒に行う活動に発展させると長続きしやすい。
- ・ 一方で、活動や行事にかかる費用をPTA予算から支出できない場合、寄付や会費の形で集めて賄わなければならない、PTA活動との連携やすみ分けに課題が残る部分もある。

PTAの組織と活動を 無理なく続けられるようにするためには？

- ・ 各学校、各地区のPTAで毎年やる行事があると、それを軸にして活動が組み立てやすい。
 - ・ 例：尾久地区の6校で共催する「ろっこうまつり」や「ピロポロ大会」、峡田地区の「ママバレー大会」（ただし、各学校PTAで、参加の度合や盛り上がり温度差あり）。
- ・ 一方でコロナ禍のために多数の行事や活動が中止になったことで、やらなくても誰も困らない活動、行事があることが浮き彫りになった。
- ・ また、逆に、子供たちのためにやってあげたい活動、行事があることも再認識できた。
- ・ 「一人一役」の仕組みが、PTA活動を、皆が平等に、そして会員全員が活動に関わらなければならない窮屈なものにしてしまっている。
 - ・ 五峡小：PTAの印刷物に明記する標語“みんなが作り上げるPTA活動”が、様々な事情で活動に関わりにくい保護者に重荷を与え、逆に積極的に関わられる人を固定化している。
- ・ 本当にやりたい活動や、新しく始めてみたい活動を考える前に、それが「一人一役」の仕組みを壊さないかどうかを考えなければならなくなっている。
- ・ ある意味、おやじの会・父親の会がその欠点を補っている面はある。
- ・ 校庭利用を新たな活動や行事を試しにやってみる場として捉えることもできるのでは。
 - ・ 三日小の例：運動会前の時期に、諏訪台中の陸上部の生徒を招いて「走り方教室」を開催。
 - ・ 青少年委員の「みんなde遊ぼう！」を招いて、校庭利用をPTA主催の校庭を使った遊びの行事に変えてみるのも面白いのでは。

教育委員会より

- ・ 感染防止拡大のために始めたオンライン学習が当初の目的・効果以外にも、骨折などの怪我で登校できない子の学習参加や、不登校の子の参加でも役立っていることが分かった。
- ・ 6月の補正予算で1億円の感染予防対策予算を確保できたので、保護者の皆さまも、学校や教育委員会へのご意見やご要望があれば、積極的に上げていただきたい。

(了)